



昭和四年五月號

工事タイムス

— 鐵 道 —

逢阪山隧道排煙工事着手 東海道線大津山科間の逢坂山トンネル排煙工事は3月12日より着手。送風機は日立製作所に於て製作中で電動機も3千3百ボルト150馬力の高壓である。総工費約7萬圓で8月中完成の豫定である。

地下鐵第三期線とステーションビル 東京地下鐵道會社では、第二期線(上野萬世橋間)も今秋には開通するので、愈々第三期線(萬世橋神田間)を4月1日から着工することとなつたが工事の進捗に連れ豫て懸案となつてみたステーションの大ビルディング建設を實現することとなり、雷門、上野末廣町、本石町を選定した、同社の設計によるとビルディングの敷地百餘坪建設資金1ヶ所平均100餘萬圓5階乃至8階建とし貸事務所或は中産階級を相手の大食堂及デパート式の物品販賣所を經營する由(前號萬世橋地下工事参照)

鐵道省建設事務所長會議 五十六議會を通過した建設費8,000萬圓を以て、116線の建設工事着手に就き豫算振當工事順序等を審議決定する鐵道省建設事務所長會議が4月20日より本省會議室にて開催された。尙4年度中に開業すべき路線は北海道各線の120哩を合せて約300哩である。

トンネル工事にセメントガン 鐵道省房總線の安房興津より鴨川間のトンネル工事は疊築工の代りに鐵網を張りセメントガンにてモルタ

ルを吹付けたる成績頗る良好にして従來の混凝土ブロック厚6吋捲立の約半額の面坪當り工費11圓位にて仕上る由。今後此種工法も益々發達の傾向である。

— 建 築 —

ゼネウアに國際都市 先に國際聯盟が多大の賞金を懸けて募集した聯盟新會館の建築設計は佛國人ネノー氏のものを基礎案として採用するに決定し近く起工される事になつたが一方平和促進の爲ゼネウアに一大國際都市を建設せんとする計畫が最近急速に進捗して、既に完成された設計圖案に基き關係當局は慎重なる協議を遂げ、近く具體的運動に着手する事になつた。而して此の國際的都市の中央には國際平和大殿堂を建築することになつて居り、工事は明年早々着手の豫定である。

復興事業完成の紀念塔建設 帝都の復興事業も今年度中に愈々完成されるが、8億と云ふ巨費を投じた世界都市の歴史に未曾有の此の事業の完成を後世に傳へる爲、復興局では工費約15萬圓見當で、復興紀念塔を建設する計畫である。

大阪市港區 磯路町三丁目に敷地5千坪建築費150萬圓を以て直徑36圓型高さ50尺、4萬人を收容する日本一の國技館を建設する由、6月起工明年11月竣工の豫定、大日本相撲協會で發表。

東洋一のモダン刑務所小菅竣工 工費萬140萬圓を投じて改築中であつた東京小菅刑務所は愈竣工した。此刑務所は司法省が東洋一と自慢する刑務所で、各監房の棟は一つの起點を中心に星形に六方へ放射してゐるので、中心に立つた監守は監房全體の囚徒を監視する事が出来る。監房の外作業場として、木工、靴工、製材、染織、印刷、鐵工等の最新式設備の作業場が完全されてゐて、宛も大工場の感があると、此の工事は全部服役囚が従事したものである。

— 道 路 —

東京大阪間の自動車道路 建設に就いて、福澤大西郎他數氏から沿道各府縣の土木課宛に、認可申請書が提出された。それに依れば、延長306哩64鎖、幅員6間以上で、東京八王子、静岡岡崎、名古屋、大津、京都、大阪を經過することになつてゐる。尙工事は約8千萬圓を要すると。

産業道路 の開設は數年來の懸案になつてゐたが今回其豫算も成立したので、具體的實施計畫にとり

かゝつた。尙本年度國庫補助額は二百萬圓延長40里分である。

東京の要所に地下通路 東京市では銀座四丁目、日本橋本石町、須田町、横町、京橋等の十字路に地下15尺位の所で横斷通路を設ける事に決し着々計畫と準備を進めてゐるが、地下鐵會社へ敷設條件として命じてゐる末廣町の地下横斷路も既に工事に着手するから東京市にも今秋頃には初めての地下通路が出来るわけである。

尙三菱地所部でも今回工費20萬圓を投じて、東京驛より丸ビルに通ずる幅6間2丁餘の地下道を建設する計畫である。

—— 橋 梁 ——

秩父の荒川にバランスドアーチ橋 埼玉縣土木課が施工中の同橋は徑間459呎有郊幅5.5mの簡單なる施工法を以て完全に施工されつゝあるは注目すべき事で、5月中に竣功の豫定である。

埼玉縣の戸田橋 恐らく日本一の深い井筒工事を以て施工せらるゝ埼玉縣の戸田橋は東京市外赤羽町の東北線鐵道橋の上流遙かなる荒川に架設せらるゝ國道橋にして東京府と埼玉縣を連繫するものである。橋の全長300間幅6間、中央徑間は87.5mのカンチレバーにして目下設計中であるが基礎工事は河底地質不良の爲め深さ41.5mの井筒を沈下するものにて其他の橋脚も長70尺位の杭打を要すると云ふ珍らしき研究工事である、此等の基礎工事丈けに約50萬圓の豫算を以て本年6月頃より工事着手の豫定なりと。

○堂島川可動橋試運轉 は4月4日大阪市土木部に於て施行、工事書報に詳報したる如く近代的の都市工事で斯界注目の中に無事竣工した。

—— 港 灣 ——

内務省では産業立國の見地から、國運の進展に重大なる使命を有する、港灣の修築を計り、兼ねて之が計畫を立案中であつたが、議會で豫算は通過したので、本年度から工事を實施することになつた、新に實施せらるゝ工事名總工費及び施工年度は次の通りである。

○關門海峽第二期工事 海峽西口より周防灘に至る航路を36尺に浚深し東口に於ける中央水道を26尺に浚深し船舶の通航を整理し船型の増大に備へて世界交通上の大勢に順應せんとするものである。總工

費600,000圓、財政上の關係から豫算全部の計上を見合せ、該計畫中急施を要する箇所を昭和4年度に於て施工す。

○土崎港修築工事 埋立、岸壁及物揚場護岸、船溜浚深、突堤、總工費2,250,000圓、昭和4年度——昭和8年度。

○小名濱港修築工事 埋立、岸壁及物揚場護岸、防波堤、防砂堤、浚深總工費3,880,000圓、昭和4年度——昭和9年度。

○宮古港修築工事 埋立、岸壁及物揚場護岸、防波堤、浚深、總工費2,200,000圓、昭和4年度——昭和8年度。

○浦戸港修築工事 埋立、岸壁及物揚場護岸、防波堤及防砂堤、浚深總工費4,370,000圓、昭和4年度——昭和13年度。

○七尾港修築工事 埋立、棧橋及物揚場護岸、貯木場、浚深、總工費3,550,000圓、昭和4年度——昭和13年度。

○尾道港修築工事 埋立及岸壁、浮棧橋、小舟溜、浚深、總工費4,100,000圓、昭和4年度——昭和16年度。

○博多港修築工事 埋立及岸壁、防波堤、浚深、總工費5,300,000圓、昭和4年度——昭和17年度。

○舞鶴港修築工事 埋立、岸壁及物揚場護岸、掘鑿及浚深、貯木場、總工費2,300,000圓、昭和4年度——昭和13年度。

○名瀬港修築工事 (鹿兒島縣奄美大島) 防波堤1,270,000圓、昭和4年度——昭和9年度。

尼ヶ崎築港株式會社創立 尼ヶ崎市及隣接大庄村鳴尾村の海岸に50萬坪の地域を埋立1萬噸級の汽船を横付け得る築港を完成せしむる計畫の尼ヶ崎築港株式會社は3月16日丸の内工業俱樂部に於て創立總會を開催、取締役及び監査役を決定した。

社長 淺野總一郎 專務 内藤正太郎
常務 關 毅

—— 人 事 ——

工學の大先輩パー博士來朝 本誌一月號に那波光雄博士の紹介により掲載したる工事中の世界第一の吊橋ハドソン橋を初めとし、古くはパナマ運河、ニューヨーク市ベビエヌ川等世界の難工事に多大の貢獻を爲し且つ有名な親日家コロンビヤ大學教授ウィリアム・エツチパー博士は夫人同伴4月11日神戸入港のプレジデント・ウィルソン號で

來朝、二三日は京都滞在御所拜觀その他關西方面の春をめて後上京帝國ホテルに入られた博士は七十四歳の高齡とは思はれぬ元氣である。



我が國工學界の恩人
バー博士

因に同博士は四十年來の親日家で八田鐵道次官、那波博士、故平井元鐵道院總裁、故廣井勇博士始め鐵道省、外務省、東西兩大學等の工學博士連は殆ど紅育留學中博士から一方ならぬ薰陶を受けたものである。

バー博士
歡迎講演

親日工學大家バー博士來朝を期とし我土木學界の先輩諸氏は盛大なる歡迎會を催し、尙ほ此機會に關門海底トンネル

工事及び東京地下鐵道工事に關してバー博士の意見の發表を乞ふ事になつてゐる由。

安藝杏一氏

内務省橫濱土木出張所長工學博士の同氏は我國港灣工學界の權威者にして大震災後の橫濱港復興には最も努力せられ今回高等官一等に敘せられたるが此の際後進に途

を拓くべく退官され今後は暫らく靜養の傍ら研究に従事される由である、四月中旬から橫濱市深土ヶ谷區神戸土町902番地に轉居された。

○片山貞松氏 内務省下關土木出張所長の同氏は今回高等官一等に敘せられ同時に依願免本官となられた。

○佐野利器氏 東京帝大工學部建築學科教授の同博士は今回歐米出張を命ぜられた。

○谷喬氏 滿鐵技師として東京支社に在勤中なりしが今回大連市滿鐵本社鐵道部工務課へ轉勤、鐵道省建設廳の橋梁會議記簿などにも當分氏の説が見られぬ事となつた。

○木原英一氏 (鐵道省保線課技師)は保線工事視察のため歐米視察を命ぜられ4月上旬出發。

○三好新八氏 鐵道省東建の技師で歐米出張工事中であつた同氏は4月初旬歸朝。

○田邊兵庫縣土木課長 は内務省から工事視察の爲め三ヶ月間北米合衆國に向け3月末出發。

○藤田東京府土木部技術課長 は内務省から工事視察のため一ヶ年歐米に出張を命ぜられ3月末出發。

○木津正治氏 3月下旬内務省下關土木出張所より橫濱土木出張所長に榮轉したる同氏は明治10年の東京帝大土木科出にして關門の工事に精勵したる人、尙ほ獨逸のハンブルグ港の研究者として知らる。

○村幸長氏 三月下旬内務省土木局第一技術課より下關土木出張所長に榮轉したる同氏は明治三十七年の東京帝大土木科出にして渡瀨瀬川改修工事の完成者として知られてゐるが、氏は以前韓國の河川港灣の技師たりし事あり、また技術者としての法律通であり随つて事務的才にも長した人である。

○井口鹿象氏 内務技師狩野川改修事務所長に任ぜられたる同氏は先に岐阜縣土木課長及び内務省東京土木出張所の江戸川改修事務所長たりし事あり大正四年東京帝大土木科出の秀才である。

○篠瀬玉造氏 東京芝浦三ノ一の東京高等工商學校の専任教授として今後土木工學及び電氣工學の講堂を擔任する由。

湯田玉水
畫伯逝く

南畫界の巨人湯田玉水畫伯は春淺き4月3日市外ヒブスマ町大原の自宅にて肝臓癌のため逝去した享年五十二歳、斯道のため實に惜しむべきである。

湯田氏は帝展委員、日本南畫院幹事であつたが曾ては山川健二郎男の玄關番をし乍ら川端玉章に師事して今日の大成を得、小室翠雲畫伯等と共に南畫壇の權威者であつた。氏は南畫精進のために死を決した事があつたが山川夫人に訓されて益々努力するに至つた、眞の南畫人として人格的にも各方面から推稱されてゐた、近作の「莊子畫冊」の一部は昨年工事畫報の一月號の表紙に紹介したものである、奇縁により湯田氏の數軸を得て今日工事畫報社内に残る一軸は曾て野村龍太郎博士の高覽に供したるもの、それが今は唯一の氏の尊い遺作とはなつた。

—— 雜 錄 ——

煉瓦の規格
統一さる

煉瓦業協會では商工省の告示に準據して煉瓦の寸法を改正4月1日より賣出すことになつた新型は舊型に比し少しく厚を減するだけで其の外には大差なし。